

神奈川県母子保健対策検討委員会新生児聴覚体制整備部会議事録

開催日時	令和6年7月10日（水） 17:30～19:00
開催場所	Zoomによるオンライン開催
※病院、医療機関等は「分娩取扱施設」に文言を統一 ※略称は、原則、正式名称にして記載。	
1 開会	
2 あいさつ (健康増進課長より開会挨拶)	
3 委員紹介 (今年度就任の委員を紹介。会議の公開について確認。)	
4 議題	
議題1 新生児聴覚検査の実施状況について	
○資料1の8ページ目まで事務局（健康増進課 惣田技師）より説明。	
(小河原部会長)	
事務局から説明のあった論点①の内容について、ご意見、ご質問等いただきたいと思っております。いかがでしょうか。	
中井町の重田委員、中井町では、未受検児・不明児ともに0、受検率100%となっておりますが、受検状況の把握やその後のフォローについて、どのように取り組まれているのでしょうか。	
(重田委員)	
中井町はそもそも出生数がここ数年30名ほどということで、母数自体が大変少ないという状況でございます。そうしたところから、助産師、保健師と母子との顔の見える関係性が築かれている状況から、100%という状況がありますけれども、小規模自治体だからこそできる状況かなと考えております。	
(古井委員)	
受検者の把握の中で、4か月児健診が受検の有無をチェックしている一つの場であると思うのですが、令和5年度の補正予算で、こども家庭庁が1か月児健診を市町村主体でやりましょう、ということで助成が始まったということです。この1か月児健診の問診票の中にも聴覚検査をしたか、しないか、というチェック機能が入っています。この1か月児健診で一番早くチェックできるのではと思うのです。しかし、神奈川県内で1か月児健診を公費負担で受けられる市町村はまだ少ないと思っております。県西部地区が産婦人科の医療機関と協力してやり始めると伺ったのですが、市町村が主体	

でやる1か月児健診になりますので、まずは県から働きかけていただきたい。1か月児健診、5歳児健診を実施していこうとなつていますが、まずは1か月児健診を神奈川県全体の市町村が実施すれば、聴覚検査の状況が早く把握できると思いますので、33市町村足並み揃えていくことが重要だと思います。

(富岡委員)

受検不明とは、どのような数なのか。4か月児健診は県全体の平均で3%前後は未受診がいると思う。4か月児健診受診児の中で不明がいなかった、という考え方でしようか。未受診児の状況把握が困難なことは、市町村の悩みかな、と思いますがいかがでしょうか。

(事務局(健康増進課 惣田技師))

健診未受診も含まれていると認識しています。4か月児健診の間診票などで市町村で確認しているところですが、保護者自身が把握していないときは不明に該当するのではと思います。

(富岡委員)

4か月児健診を受診せず、市町村の方々が色々とアプローチしても把握ができないお子さんについても、不明に入ってくるということでもよろしいでしょうか。

(事務局(健康増進課 惣田技師))

はい。そのように認識しております。

(小河原部会長)

川崎市は今回から集計反映となつています。人口の多い自治体ですが、いかがでしょうか。今されていることでも、今後こう言う方法はあるなど、ご意見を聞かせてください。

(村山委員)

川崎市は今まで集計が反映できず、大変申し訳なかったと思っております。ヒアリングの時に回答させていただきましたように、出生連絡票のところでいち早く、訪問に行く前から把握することを区役所の保健師たちが実施しております。また、赤ちゃん訪問の際に確実に母子健康手帳を確認しながら、検査結果の確認をし、精検を受けていないと把握した時はすぐに精検を受けるように働きかけをしております。しかし、保護者自身の記憶が曖昧であったり、記録にも書かれていないというケースがあるとは聞いております。

(小河原部会長)

ご意見ありがとうございました。他にご意見・ご質問などございませんでしょうか。それでは、事務局で先に進めてください。

○資料1の15ページ目まで事務局（健康増進課 惣田技師）より説明。

（小河原部会長）

事務局より説明がありました。論点②の内容について、ご意見、質問等ありますでしょうか。

横浜市は人数も多く大変かと思いますが、どのようにされていますか。

（奥津委員）

横浜市の場合、リファーとなった方に対し、医療機関から各区に情報提供書が送られてきております。まずは、その情報提供書の写しをもらうことで把握しています。それをもとに、その後の経過、受診の有無、その結果については各区の方から保護者に電話をかけてその後の経過を把握するという流れで行っています。

（相原委員）

途中から入ったので、前の議論がどうなっているかわからないのですが、事前説明の中で、検査の実施率やそのフォローや工夫などの話があったと思いますが、こども家庭庁ができたこともあり、子どもに対する健診として、1か月児健診と5歳児健診が追加されることになったことは、ご承知かと思います。1か月児健診が必須化されることで、新たな問診票を作って、そこに聴覚検査の実施状況を記載すれば、漏れが少なく済むのではないかと思うのですが。

（小河原部会長）

私も個人的にはそうしていただければと思っております。

（落合委員）

横浜市に教えていただきたいのですが、横浜市の出生数は23,780人とかなり多いんですけども、未受検児数は0ですよ。何か特別な工夫をされているのでしょうか。まさしく課題②の答えになるのではないのでしょうか。

（奥津委員）

実は未受検児が0というのは、実際には不明のところは全て入っているということで、統計が正しくとれていないというのが実際のところですね。申し訳ございません。工夫して0になっている、というところではありません。問診票で確認は取りますが、受検していない人が未受検なのか、どういう状況かわからない場合のシステム入力できる形になっておりません。そのため不明に全て入ってしまっているということですが、今後システムの標準化する際には改修をして正しく統計がとれるようにしていきたいと考えております。

（落合委員）

まあ、普通に想定するとそこそこ未受検児の数はいるだろうということですね。

(奥津委員)

そのようになります。

(杉本委員)

横須賀市健康管理支援課の杉本と申します。私からも横浜市に質問させていただいています。診療情報提供書の返事で状況を把握しているという話でしたが、ABR 検査等でのリファーとなったお子さんの紹介状の返信も医療機関だけでなく、市にも届くフローなどができているのかということをお教えください。また、実際の内容について教えていただけたらと思います。

(奥津委員)

一応フロー上は、各区に診療情報提供書をお送りいただくようなフローになっているのですが、ただ実際にお送りいただく数はとても少ないため、共有しながら方向性を合わせていく必要があると思っております。

(相原委員)

産婦人科の実施医療機関に関するデータが提示されたと思うのですが、回答が来ていないところがどうなのかを詰めていかないと、実際もう少し改善の余地があるはずなので、そこはぜひ県の方がやるべきだということは事前の説明の時に指摘したことなので、ここでも述べておきます。

(富岡委員)

各市町村の助成が 100%になったということは、素晴らしいことだと思うのですが、助成の期間が 30 日以内というところもあれば、6 か月以内などまちまちです。機器が無い分娩医療機関で出産した場合、退院後、生後 30 日以内に他院に検査を受けに行くことはとても大変だと思います。また、4 か月児健診で検査を受けていないことを把握した場合に、検査を勧めても自費だと受けることをためらうのではないかと思います。実際に、市町村ではどのように対応しているのでしょうか。

(杉本委員)

横須賀市では、新生児聴覚検査が受けられる期間は一応 3 か月未満と規定になっているのですが、例えば 4 か月児健診で未受検を把握した場合は、期間は過ぎていますが理由を付けて補助が使えるよう対応させていただいております。

(奥津委員)

横浜市の場合は生後 60 日までに受けた検査に関しての費用を補助するものなので、期間が過ぎての対応は応じていません。ただ、4 か月児健診の時に検査を受けていないことを把握した時には、費用はかかってしまうが、お子さんの将来を考えて検査を勧めている状況です。

(重田委員)

中井町の細かいところまで確認できていないので、申し訳ありません。

(村山委員)

概ね生後3日以内に初回検査を行い、その結果リファアとなった場合概ね生後一週間以内に再確認を実施すること、ただし、特別な事情により検査を実施することができないときは、生後60日以内のできるだけ早い時期にということになっております。また、未熟児など特別な配慮が必要な場合は、医師が適切と判断した時期まで、となっております。

(小河原部会長)

平塚ろう学校の方にお伺いします。発見が遅れる、あとから検査するケースなどいらっしゃるのでしょうか。そのようなケースを把握されていますでしょうか。

(三橋・加藤委員)

平塚ろう学校です。本校の方にも新生児スクリーニング検査を受けてこられずに、後から難聴が見つかるというケースが少なくない状態です。

また、確定するまでの間、新生児スクリーニング検査でリファアとなって確定されるまでの間が保護者はすごく不安になられていて、本校に相談に来ていただくこともあります。確定されるまでの間に支援ができる場所とか、確定後に自宅の近くで難聴に特化した専門的な支援が受けられる場所があるといいな、と本校では思っております。

(小河原部会長)

難聴児又はその疑いのある児がきちんとフォローされていく体制を今後整備されていくことを願っております。

続けて事務局より説明をお願いします。

○資料1の19ページ目まで事務局（健康増進課 惣田技師）より説明。

(小河原部会長)

ありがとうございます。事務局から説明のあった公費負担の助成額について、ご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(相原委員)

今年度から先天代謝異常検査に関して、国の方で予算が付くような話を聞いています。子ども優先の世の中というか、これから少子化で予算が増えることはなくて、逆に減っていく中で、手厚く助成していただくことが検査の実施率も上がることにつながると思いますので、ぜひ市町村に頑張ってほしいと思います。

(小河原部会長)

実際に検査をしている産婦人科の立場として落合委員にお尋ねします。保護者の方

は額が少ないという感じで言われていますでしょうか。あまり気にされていないか、印象はいかがでしょう。

(落合委員)

私が勤めている北里大学での経験ということになりますが、北里大学はそもそも分娩費用が結構高額な病院です。なので、聴覚検査の費用で何かお話があることはそうそうないのですが、そのような施設でも、時折自己負担額の問題で検査を悩む方はいらっしゃいます。市町村の方がおっしゃることは何となく理解できます。ですので、可能であれば、相原先生がおっしゃったような公費負担がもう少し増えると悩まずに検査できるのかな、と思います。

(小河原部会長)

他にご意見はございませんでしょうか。それでは、事務局からご意見などありましたらお願いします。

(事務局 (健康増進課 惣田技師))

たくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございます。市町村の方と連携をして、実施状況の把握と、全てのお子さんや保護者の方に適切なフォロー体制や検査体制が作れるように、今後も取組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(小河原部会長)

ありがとうございます。

それでは、議題1について、これで終了とします。

続きまして、報告1 新生児聴覚検査に関わる県の取り組みについて、事務局から説明をお願いします。

<報告1>新生児聴覚検査にかかる県の取り組み

○資料2により事務局 (健康増進課 惣田技師) より説明

(小河原部会長)

事務局より説明がありました。委員の方からご意見等ありますでしょうか。

(佐野委員)

北里大学の佐野です。サイトメガロウイルス感染症に関して、質問と意見があります。リファードだった場合、3週間以内に検査を行うということは、結構忙しい話で、どこがやるのかなどのフローと言いますか、流れがまだ決まっていないのではないかなと思うんですね。北里大学では、だいぶ前に小児科がこの話を持ってきて、やりましょうという話が数年前にあったので、うちの病院では小児科がやっているのかな、という風に思っているのですが、落合先生ご存じでしたら、うちの病院がどうなっているか教えていただけたらと思います。

(落合委員)

小児科がやっていると認識しています。

(佐野委員)

それが自然だと思います。総合病院の場合は、小児科が検査することが自然だと思いますが、小児科に依頼するなど、他の病院ではまだ決まっておらず、小児科も知らないところがあるように聞いています。ぜひ、小児科にも協力していただく必要があるのではないかと思います。

(相原委員)

少なくとも医師会を介して検査に関しての通知は来ています。ですから、開業医には少なくとも届いているはずですが、病院に関してはどのようなルートで行っているかは把握しておりません。

(小河原部会長)

サイトメガロウイルスがかなり難聴の原因になるというのは昔から言われていました。

(古井委員)

サイトメガロウイルス感染症の検査を実施できる医療機関の一覧は配布されているとのことでしたが、表などがあるのでしょうか。

(事務局（健康増進課 惣田技師）)

はい、ございます。

画面共有させていただきます。検査可能と回答している医療機関は52施設ございます。そのうち、他院で生まれたお子さんも受入可能と回答されたのが34施設ございました。多くは病院ですが、クリニックや産婦人科もございます。この一覧表は市町村にも配布させていただいております。

(小河原部会長)

ありがとうございます。新生児聴覚スクリーニング検査の手引きにもこの一覧表は載っているということですね。

(事務局（健康増進課 惣田技師）)

手引きには一覧表は載っておりません。

(古井委員)

質問ですが、リファアとなったお子さんが、サイトメガロウイルス検査、これ尿検査になりますよね。検査可能と回答されている医療機関に受診したときには保険診療でできますか。

(事務局 (健康増進課 惣田技師))

保険診療でできる検査になっております。

(古井委員)

わかりました。ありがとうございました。

(落合委員)

先ほどの佐野先生はお話されたことの追加のコメントになりますけれど、先ほど事務局の方が見せてくださった一覧表ですけれど、調査が来た時に、どこにそれを回答する人がいるのかと、かなり混乱した記憶があって、最終的にだれが回答していいかわからないということで私のところへ来て、そこから小児科に回った記憶があります。なので、もしかすると、総合病院みたいなところは責任の所在が曖昧になっていたりするケースがあるのでは、という気がしてきました。可能であれば、50施設くらいのところに事務局から連絡してもらい、この件の窓口はだれかということ把握されると一気に状況改善するのではと思います発言させていただきました。

(小河原部会長)

他にご意見やご質問ございませんでしょうか。それでは、報告1についてはこれで終了といたします。

次に報告2令和5年度聴覚障がい児支援中核機能モデル事業の取組について、事務局からお願いします。

＜報告2＞聴覚障がい児支援中核機能モデル事業について

○資料3により事務局 (障害福祉課 水谷副主幹) より説明

(小河原部会長)

事務局より説明がありました。内容につきまして、何かご意見やご質問がございますか。

新生児スクリーニング検査で難聴と診断された親御さんなども、非常に不安が強いようですけれども、何かそのような子の親御さんに対してのケアを考えていらっしゃるのでしょうか。

(事務局 (障害福祉課 水谷副主幹))

はい。先ほど部会長がお話くださったように、保護者の方は非常に不安なところがあるので、中核機能の場所、それは藤沢市にある聴覚障害児福祉センターというところですけども、そこの職員が丁寧に、そして安心感を与えるようなお話を、具体例を用いてすることが一つの大きなポイントかと思っています。やはり、ご家族単位で、どうしても縮こまるといいますか、うちの子はこうだっていうのはなかなかほかの知り合いの親に言えないか、どうしても自分で抱え込んでしまうことがあります。そのため、極力ふさがらないように、他のご家庭の事例を設けたり、先ほど取組みでご説

明させていただいた家族教室をご案内させていただいて、同じような状況といいますか、お子様を抱えているご家族との交流といったところをご案内して、家族同士のつながりといいますか、枠組みといったものを形成していく取組みをしているといったところがございます。

(杉本委員)

先ほど、同じ悩みを持つ方が情報共有できるようにとのことで、おしゃべり広場のご紹介があったのですが、こちらの開催場所が平塚市で開催されることが多いとうかがっているのですが、例えば開催場所を、横須賀市からだとなかなか行きにくいということがあるのですが、県内の色々な方に来ていただくと考えると、いろいろなところで開催がいいかと。今実際にしているのかということと、今後開催場所を増やす予定はあるかということについて教えてください。

(事務局 (障害福祉課 水谷副主幹))

ご質問ありがとうございました。

おしゃべり広場は実際、家族教室と連携といいますか、一緒の日に開催したり、別々の日に開催はしているのですが、トータルで家族教室の回数は令和5年度より増やしている形になっております。先ほど平塚市だけという話がありましたが、実際平塚市以外でもやっておりますし、今年度も引き続き例えば小田原市ですとか、可能であれば県央地域ですとか、もう少し様々な地域でやっていきたいなと思っています。あと、どうしても場所の問題等があるので、距離や会場の制約を踏まえて開催していこうかなと思っています。

(小河原部会長)

他に何か、ご意見、ご質問はありませんか。

難聴が早期に発見されましても、その子の療育が充実していないとお子さんの言語力が伸びていきませんので、もっと中核機能として頑張っていたきたいと思っています。

他にご質問がありませんようですので、報告2についてこれで終了といたします。

以上で次第にありました議題は全て終了いたしました。

最後に全体を通して委員の皆様から何かご発言はございますでしょうか。

ありませんか。それではこれを持ちまして、議事は終了したいと思います。